



令和5年11月号 Vol.70
情報メディア教育センター

読書の秋

読書週間です。今年の標語は「私のペースで しおりは進む」
だそうです。なんだかステキな言葉ですね。読む速さや、タイ
ミング、気分もあるので、しおりの進み具合も様々。しおりを使
わないで一気に読む！時もあるかもしれませんね。自分なりの読
み方で読書を楽しめるといいなと思います。という訳で“読書の
秋”です。EMCでお待ちしています♪。

私のペースで しおりは進む

2023・第77回 読書週間
10/27～11/9



スティックを支えているのは読書だ ～アスリートと本の秘密～

スポーツの秋、読書の秋ですね。この二つ、一見関係なさそうに感じますが、アスリートにとって、
スポーツと読書は意外とつながりが深いかもしれません。今回はそんなアスリートの中から、特に
スティック&ストロングなイメージのある二人に注目してみました。



陸上 女子中長距離の田中希実選手

2021年「あなたの心を最も熱くした選手」1位

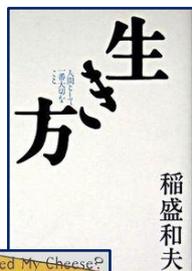
1000, 1500,
3000, 5000m
で日本記録を持つ
トップランナー

何十年先も記憶に残る選手になるため「強くなりたい」と自分を追い込み、時には17日間のケニア合宿に挑むなど、自分への厳しさはアスリート界屈指！そんな彼女は読書好きでも有名で、読書中は陸上から離れ本の世界でリラックスしているそうです。児童文学が好きな田中選手が選ぶ本は！



- ・『赤毛のアン』ルーシー・モンゴメリ/著
- ・『だれも知らない小さな国』佐藤サトル/著
- ・『大草原の小さな家』ローラ インガルス ワイルダー/著

出典:スポーツ総合サイト「THE ANSWER」



野球 大谷翔平選手

前人未到大活躍を続ける選手の読書とは！

夢を実現するためにあらゆる努力を行う彼は、運さえも味方にするための手段として読書をするそうです。幅広い分野を読み、スランプ時のヒントを求めたり、心に留まった言葉をノートに書き留めたりと、シーズン中の忙しい日々も読書習慣を続ける。そんな大谷選手の気になる愛読書とは。。

- ・『生き方』稲盛和夫/著 サンマーク出版
- ・『論語と算盤』渋沢栄一/著 日本能率協会マネジメントセンター
- ・『チーズはどこへ消えた?』ジョンソン スペンサー/著 扶桑社

出典:本のとりに「ブクログ通信」





新着図書ピックアップ



『キリエの歌』

岩井 俊二【著】文藝春秋

10月に映画化された本です。物語は、歌う時だけ声を出せる女性と、その周りの人々の育った環境や震災にまつわる場面が代わる代わる描かれています。若さゆえであろう行動や翻弄される様、震災の緊迫した様子など、読んでいても辛く苦しくなるような様子で感情移入してしまいました。著者の映画は何本か見たことはあり本は初めてでしたが、文章の中でも岩井氏の世界観が伝わり、まるで映像を見ているような感覚でした。個性的な登場人物の様子やふんわりとした空気感、まるで聞こえてくるように音楽が書かれています。映画も見たいくなりますよ。(大原)



『青春をクビになって』

額賀 滯【著】文藝春秋



スポーツ系の青春小説が多い作者ですが、今回は夢破れた30代が主人公。「夢はあきらめなければ、叶う」子供のころ、学生時代、よく耳にする言葉ですが、この小説はそんな言葉を初っ端から否定してきます。

(社会にでると全く聞かなくなるのも事実ですが・・・)

古事記の研究者で、30代半ばの大学非常勤講師の主人公も、雇止めにあい、叶わなかった夢をどうするのか悩みます。他人に見下されながらこのまま研究を続けるのか、あきらめて違う職業に転職するのか、努力してもどうにもならない社会の中で、「叶わなかった夢」の先に注目してみてください。(矢田)

『ひとまず上出来』

ジェーン・スー【著】文藝春秋

「皆さんよくぞよくぞ金曜日までたどりつきました！」で始まる金曜日のラジオ番組「over the Sun」のパーソナリティーで、コラムニスト、作詞家など、いくつもの顔をもっていらっしゃるジェーン・スーさん。楽しい気分や前向きになれるエッセイもたくさんありまして、本書もそのうちの一つです。

毎日あれこれあるけれど、すべてが思い通りにいかなくても、完璧でなくてもそれはそれでいいんじゃない、「ひとまず上出来だ。」と思えば。

なるほど…。こういう気持ちになるには、どれだけ他と比較しないでいられるか、どれだけ自分を信じられるか、が重要なんだろうな。人生とりあえず前に進みたいですもんね。じんわり心に効く一冊。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。

読みかけの本が机の上にあるのをかっこいいと思っている

藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.70

『猫を処方いたします。』 石田 祥【著】



先月の特集棚には8月におこなわれた「BOOK HUNTHING」で、参加者 15 名が狩って（買って？）きた本が配架されていました。今回紹介する本は、名古屋の書店で生徒が狩ってきた本の中から1冊を選んでみました\(^o^)/

薄暗い路地にある「中京こころの病院」。心の不調を抱えてこの病院を訪れた患者に医者が処方するのは、薬ではなく、本物の猫！戸惑いながらも、決められた日数、猫を「服薬」する患者たち。猫と暮らすことで、彼らの心も少しずつ変化していく。そして医者が猫を処方するには、ある理由が。その理由とは…。猫好きの猫好きによる猫好きのための本です。

この本を選んだもう一つの理由。我が家は、絶対的権力者の妻が存在するため私の発言権はあってないようなもの。その妻の「うちをやる動物は絶対に飼わない」の一言により、我が家は一生動物を飼育できない状況に陥っていました。そんな中、私は幾度となる交渉の末、なんとかエビ飼育の許可を得て、小さな水槽で小さいエビを細々と飼育していました。

（最近エビの繁殖に成功し、増殖傾向です。ほしい人は譲りますよ。レッドビーシュリンプという種類です。）



そんなある日、妻から衝撃の「猫購入許可」が(ノド)。。。あまりの嬉しさにその日は眠れませんでした。私は、プリティッシュショートヘアという種類の猫をどうしても飼いたかったんです。たまたま鈴鹿市内にプリティッシュショートヘアを扱うキャッテリーを見つけ、さっそくお邪魔することに。そこにはペットショップでは見たこともない種類の子猫がたくさん(*_*)子猫はどれも可愛いです。可愛いは正義です(ノド)。。。

しかし、ここで我が家の絶対的権力者から強権が発動します。「この子がいい！」目を向けるとプタのような顔でタヌキのような風貌の大きな成猫が…(°Д°)何としても子猫がよかった私は、子供を味方につけ必死に抵抗しようと思いましたが、子供の「猫だったら何でもいい」の発言に勝負ありです。プタ猫さんは譲渡猫のため金銭的には有難いですが…。そんなこんなでプタ猫さんが我が家につい先日処方されました。いやぁ〜一緒に暮らすと不細工な顔も愛くるしく感じるものです。今ではプタ猫さんも我が家に慣れ、私のそして家族の癒しとなっています。本当に。もう猫のいない生活は考えられません！

最高です！！我が家も絶対的権力者も溺愛しています。

みなさんも動物を処方されてはいかがでしょう。



『猫を処方いたします。』
石田 祥【著】PHP 研究所

11月の開館予定

11月		
1	水	8:10-17:50
2	木	8:10-17:50
3	金	休館
4	土	休館
5	日	休館
6	月	8:10-17:50
7	火	8:10-17:50
8	水	8:10-17:50
9	木	8:10-17:50
10	金	8:10-17:50
11	土	休館
12	日	休館
13	月	8:10-17:50
14	火	8:10-17:50
15	水	8:10-17:50
16	木	8:10-17:50
17	金	8:10-17:50
18	土	休館
19	日	休館
20	月	休館/館内整理
21	火	8:10-17:50
22	水	8:10-17:50
23	木	休館
24	金	8:10-17:50
25	土	休館
26	日	休館
27	月	8:10-18:50
28	火	8:10-18:50
29	水	8:10-18:50
30	木	8:10-18:50



第62回 原田 大志先生おすすめ

『物語でわかるAI時代の仕事図鑑』

竹内 一正【著】

私が紹介したい本は、図書館にあるAI時代の仕事図鑑です。この本は、今ある仕事の大部分はAIに置き換わると言われている2030年に訪れる雇用の姿を読み解く一冊です。製造業、金融、教育などの業界でAIがどのように使われるかが分かりやすく小説になっています。みなさんの働く未来の参考にしてみてください。

※お薦め本はリレー連載です。次のボタンはどなたに渡るかな？

今月の本棚
Books
ourshelves

どんでん返し

読んだらアカン

「どんでん返し」。それはたった一行でこれまでのすべてが反転する。意外な真実が意外な角度から突き付けられる。思わず「騙された！」と叫んでしまうサプライズ。これぞ刺激的読書体験だー。

ただ…。一度ハマると「どんでん返し」の脳内快樂物質の誘惑を断ち切ることは難しい。ときどきEMCにも刺激を求めてさまよう姿があるとかないとか。

宿題がたまっている人、試験間近な人、手を出すなかれ。読んだらアカン、「どんでん返し」

「イニシエーションラブ」とは通過儀礼の恋愛のこと。だからこそその結末か…。深い。

『イニシエーション・ラブ』
乾くるみ【著】新潮社

2度読みしたくなる度
★★★★★

元私立探偵が事件解決に挑む。映像化は無理、小説でのみ成立する「どんでん」だ。伏線回収が快感です。

『葉桜の季節に君を想うということ』
歌野晶午【著】文藝春秋

読了後タイトルの意味がわかって感動する度
★★★★★

「本屋を襲撃しようぜ」からすべてが始まる。事件の全貌が明らかになったときすべてがリバーズ!!

『アヒルと鴨のコインロッカー』
伊坂幸太郎【著】東京創元社

なぜか切ない余韻が残る度
★★★★★



知れば知るほど夜は更ける

眠れない本シリーズ

●図書館からのお知らせ

県内一番のり？EMC 恒例、**早すぎるクリスマスツリー**を飾りました。

いよいよクリスマス。今年の企画は皆さんに楽しく参加してもらえるように、ただいまアイデアを練っています。詳しくは来月号でお知らせします。



編集後記 晩秋。今年は季節の進み方が早いなあと感じているのは私だけでしょうか。できれば冬はゆっくり来てほしいと思っています。(大塚)

